えがお

モノクロ印刷でご覧の方は、パソコンや携帯で、「伊那市えがお」と検索するか、下のQRコードから入ると、カラーでご覧いただけます。

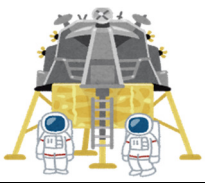
令和５年度
No.4
10月27日

最初の一歩

伊那市子ども会育成会連絡協議会
会長　遠山　豊

一九六九年七月二十日、宇宙史上初めて人類が天上に輝く月に降り立ちました。アポロ十一号です。まさに「歴史的な一歩」でした。地球から三八万五〇〇〇㎞もの彼方にある月にたどり着いたのです。当時は想像することすらできませんでした。大変感動もしました。今後は「アルテミス計画」もあり、月への興味は尽きません。

でもあの輝く月は、本当に私たちにとって遠い存在なのでしょうか？



ある学者の話です。ここに〇・一㎜の紙があります。この紙を一回折り曲げればその厚さは〇・二㎜になります。二回折り曲げれば〇・四㎜です。ではこの紙を何回折り曲げれば月に届くのでしょうか？実際に計算してみると、驚くことにたった四十二回なのです。そう考えると、月も案外近くにあるものだと思えてきます。

誰もが新しいことにチャレンジしたいと言う気持ちは有ると思います。学業・スポーツ・趣味等。ただ、ゴールが遠い・面倒だ・忙しいと言う理由で自分の中で諦めてしまってはいませんか？

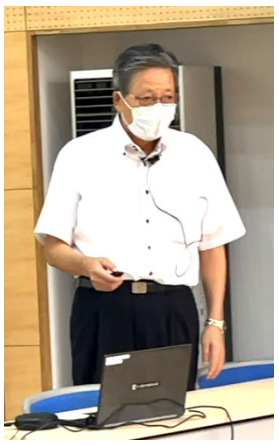
子どもたちも同じです。最初の一歩が踏み出せないとしたら、背中を押してあげることも必要です。次世代を担う子どもたちには、色々な経験をさせてあげ、視野を広げてほしいと思います。

光り輝く月は、そんなに遠くにある訳ではありません。新たに一歩を踏み出せれば、〇・一㎜の紙を折り始めることができれば、ゴールは必ず来る。あの月にたどり着ける日がきっと来る。何事にもチャレンジすることが大事です。目標も立てましょう。そして、紙を一回折ることから始めましょう。さあ、いざ行かん！光り輝く希望の月へ。

手良公民館歴史講座
「特攻隊に感動と熱狂の上伊那の子どもたち」
～誰が、何が、そうさせたのか～

日本教育史学会会員
「伊那路」編集委員　矢澤　静二　氏

手良公民館の歴史講座が、講師に、元赤穂東小学校校長・上伊那教育会長で、現在日本教育史学会会員・県文化財保護協会理事・郷土研究誌「伊那路」編集委員など様々な立場でご活躍の矢澤静二先生をお迎えして、おこなわれました。



矢澤先生は、特攻（特別攻撃）隊にかかわる豊富な資料と上伊那地域の児童の作文を元に、日本全体の様子と上伊那の様子の両方から、特攻がどのように始まり、継続され、子どもたちが特攻になることを熱望したのかという経過をお話しされました。

特攻作戦に至った理由は、戦況の悪化とその立て直しのためで、特攻隊員たちは、上官から「日本の危機を救うのは君たちであり、その戦いを天皇に報告する。」と言われ、作戦に参加しました。そして、「レイテ沖海戦」で戦果を挙げた特攻は、やめることができなくなり、異常な作戦は常態化し、やがて戦果を挙げることより玉砕することが目的となっていきました。特攻を称える新聞の売れ行きが伸び、県内では県会、信濃教育会、上伊那校長会でも特攻を支持する動きをしました。各学校では校長先生から特攻隊の様子が感動的に語られ、上伊那の国民学校の子どもたちが書いた「綴り方　特攻隊殿」という文集の中には、上伊那のある國民學校の6年男子組で、担任の先生を隊長にして、特別攻撃隊を組織したという記録が残っているということでした。

最後に、矢澤先生は、「誰もが平和を望んでいるのに、なぜ戦争をやめさせることができないのか。」、「（先の戦争が）日常的な目先の生活だけにかまけているうちに、いつの間にか戦争体制がつくられてしまい、やめさせることが著しく困難になった。」、「戦争を知らない世代に課せられた責務として、戦争の歴史から正しい事実を知り、勉強することが大切」とお話されました。改めて、命の大切さや平和の尊さを感じ、世の中の動きや教育等について、考える機会となった講演会でした。

富県小学校
学習支援・登山ボランティア

富県小学校では、年間12回の予定で、地域の方が1年生（21人）と2年生（19名）の学習支援に入っています。

1年生の丸つけ

2年生への個別指導

この日は、3人の方が各教室で、ドリルやプリントの答え合わせをしたり、問題の解き方を助言したりしました。教室での先生の人数が増えることで、個々の子どもに合わせての指導ができ、子どもたちは自分の進度で学習に取り組めます。また、子ども同士の教え合いでも、学習の理解を深める様子も見られました。1時間集中して取り組めた子どもたちは満足した様子で、支援の方にお礼の挨拶をしていました。ある支援の先生は、「毎回楽しみにしていて、子どもたちから元気をもらっています。」とお話されていました。

並んで順番を待ちます。

友だち同士での教え合い

昨年度は、新型コロナウィルス感染症や台風の影響で実施できなかった「高烏谷山遠足」が、今年度は、秋晴れのもとで実施されました。この行事では、5名の保護者ボランティアさんが、隊列の中に入って、個々の児童の様子に注意を払ったり、先生方のサポートをしたりして、安全安心で楽しい遠足となるよう支えていただきました。

蜂の発生のため、山頂は立入禁止となっており、栂平までの道のりではありましたが、低学年も長い道のりを元気に歩き、眺望の良い栂平で、お昼を食べ、故郷の山を楽しく歩くことができました。

栂平でお昼を食べました。

急な林道も元気に歩きます。

（問い合わせ先　伊那市教育委員会生涯学習課　℡78-4111　内線2722）

高遠北小学校「地域を学ぶ日」

高遠北小学校では、毎年、三義・長藤・藤沢の三地区に分かれて、地域の自然や歴史・文化、産業などについて学習する「地域を学ぶ日」が行われています。

今年度は、三義地区が「遠照寺にまつわる話」、長藤地区は「国道152号栗田から四日市バイパスについて」、藤沢地区「三峰川砂防ダム見学」という内容で、学習をしました。

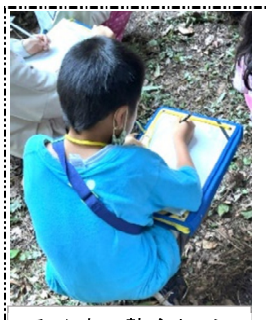
その中で、この日は遠照寺の学習を取材させていただきました。遠照寺の釈迦堂や多宝塔等は、学校でも学習しているので、今回は、それ以外の境内の建物について見学しました。

案内していただいたのは、講師の遠照寺住職で育成会長の松井教一さんと区長会長の伊藤清志さんです。

講師の松井さん（左）と区長会長の伊藤さん

虚空蔵像（こくうぞう）さま

児童の皆さんは、三義生活改善センターに集合して、はじめの会をしてから、最初に「虚空蔵（こくうぞう）さま」に行きました。虚空蔵様は、人々に無量の福徳と智慧を与え、願いを満たし救うという仏さまで、毎年4月29日にお祭りが行われているということです。松井住職さんは、「ここへ来て、お参りすると、物覚えが良くなるかもしれませんね。」とニコニコしながらお話してくださいました。


みんな、熱心にメモをとっていました。

七面堂に到着！

次に、七面堂に行き、建物内陣（奥）に安置されている七面天女大明神や88枚の絵天井、鬼子母神のお話などを聞きました。この頃には、メモ用紙がいっぱいになり、新しい紙をもらった児童が何人もいました。

そして、外陣（手前）にある文化8（1811）年に製作され、文政13（1830）年の『山室鏡』に「これ日光（日光東照宮）にたとえんか」と記されたほど見事な一枚一枚異なる19枚の絵天井とその中に一つだけある「だまし絵」を見ました。最後には、遺言により毛髪と歯が埋葬されている絵島の分骨墓も見ました。

松井住職さんには、この日の学習のために、分かりやすい文章で書かれ、カラー写真が豊富な素晴らしい資料をご準備していただきました。

三義・長藤・藤沢の三地区では、「地域を学ぶ日」を実施するにあたって、学校に頼らず、役員の方々が毎年新たな学習内容を考えて実施しているとお聞きし、児童が故郷について学びを深め故郷を大切に思う気持ちを育ててほしいと願う地域の想いを改めて感じた行事でした。

七面堂の内陣（奥）

外陣（手前）にある「絵天井」

絵天井の中にある「だまし絵」

絵島の分骨墓

高遠中学校「森林学習」

高遠町出身で、初代東京藝術大学学長の伊澤修二氏の弟、伊澤多喜男氏は、和歌山・愛媛・新潟の県知事を経て、警視総監、貴族院議員、台湾総督、東京市長、枢密顧問官等を歴任し、明治から戦後の政界で活躍した人物です。多喜男氏は、百年前に、環境保全の重要性を提唱し、ふるさとの高遠の森にも格別の想いがあったようで、私費を投じて高遠町に山林を寄付し、高遠中学校の学校林も多喜男氏が寄贈した森で、「伊澤学林」と名づけられています。

毎年、高遠中学校の1年生は、猪鹿沢（いろくざわ）にある伊澤学林の整備作業を通して、森林の役割や育てる大切さを学んでいます。講師の伊那市振興公社西村一樹さんに、事前学習会でお話を聞いて、この日の作業を迎えました。

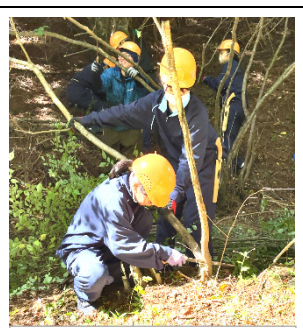
1年生40名は、高遠文化センターではじめの会をしてから、1時間ほど歩き、伊澤学林に到着しました。身支度や作業準備をしてから、西村さんをはじめ、森林組合・県の林務課・振興公社・市役所高遠支所等、多くの方々にサポートしていただきながら、森林作業がはじまりました。

橋を作る班は次第にドリルの扱いにも慣れて、班員で協力し合いながら、丸太を固定していきました。間伐する班は、足元が不安定な急斜面で、切り方を教わりながら、集中して間伐を進めました。除伐する班は、状況に応じて個人やペアになり、粘り強くのこぎりを動かし、木を切っていきました。

世代を超えて続けられてきた森林学習は、多喜男氏の想いを受け継ぎ、生徒の皆さんの心に、森や自然、故郷を大切に思う気持ちを育む活動であると思いました。

半分に切った丸太を固定して、学有林に入るための新しい橋を作っています。

ドリルで穴をあけ、丸太を固定していく作業の説明をする西村さん


除伐は、育てたい樹木の生育を妨げる他の樹木を刈り払う作業です。

間伐はかなり急な斜面での作業でした。

最初に、伐採する方向を決めてから、その方向に「受け口」という30度～45度程の切れ目を入れます。その後、反対側から「追い口」という切れ目を入れ、切り倒していきます。（上の写真は追い口を切っているところです。）

「受け口」を切りました。

「伊那市人権同和教育講座講演会」

演題　「大切なのは、いたわり・愛
～多様性社会を自分らしく生きる～」
講師　中山 まさとも さん（漫才師）
日時　令和5年11月11日（土）
午後1時半～3時（開場 午後1時）
会場　伊那市生涯学習センター（いなっせ）六階
※入場無料、申し込み不要、先着200名

詳しくは QR から↑

（問い合わせ先　伊那市教育委員会生涯学習課　TEL78-4111　内線 2722）